



わたなべ まさとし 渡邊 正俊 議員



候補地の1つ(富岡土木事務所跡地)

**渡邊** 平成26年6月の学校法人昌平聳との地域連携協力を関する協定の締結から、6年が経過した今日、大学の学部設置の検討を進めてきたとのことですが、今後の展望について伺います。

**今後の展望は**  
町長／昌平聳と連携し対応続ける

大学誘致

**町長** 学校法人昌平聳より、広野町の敷地を活用した文理融合型の教育・研究組織として、文科省の「(仮称)大学等連携推進法人制度」を活用し、建物の建設を含めて引き続き検討を続けるとの回答を得ています。

今後共、学校法人昌平聳と連携して対応していきます。

学校設備改修

自動水栓に改修を

教育長／改修に向け検討する

渡邊

各種感染症予防のため、一日に何回も触れる水道の蛇口を、自動水栓に改修するべきと思いますが、その考えがあるか伺います。

教育長

自動水栓への改修は、児童・生徒が直接触れることがなく、感染予防に有効な手段であると受け止めています。

自動水栓への改修に向け検討します。



小学校教室の蛇口

学校生活

感染症防止の対策は

教育長／健康状態把握し対策を徹底

遠藤

①国の緊急事態宣言を受け当町の小・中学校は、長期間の休校となりました。現状は感染予防の対策を継続しなければならない状況です。学ぶ権利を保障するため、オンライン授業ができる教育機器を各家庭に提供するべきではありませんか。  
②子どもたちのクラスター感染を防止する「新しい生活様式」に基づく校内生活の対策はどのようになっていますか。

教育長

①小中学校の児童・生徒へタブレットを配備し、インターネットを活用できる環境整備を行います。  
②発熱等風邪の症状がある場合には登校しないこと、登校時の健康状態の把握、マスク着用の咳エチケットの徹底、児童・生徒が多く触れる場所の消毒、教室などの換気の徹底、教室内での机の距離の確保、給食の際の空き教室を利用、授業中のマスクの着用などの対応を行っています。



災害用ワンタッチパーテーション

避難所

感染症の対策状況は

町長／検温実施し避難場所分ける

遠藤

①新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中、台風・豪雨災害などが起きやすい夏季を迎えるにあたり、避難所での感染症予防のため、エリアを区画する資材を購入し備えている行政もあるようですが、当町の対応策を伺います。

②避難所の感染予防対策にも限界があります。これからは避難所であっても感染のリスクがあることなどを町民も理解し行動していただく取り組みが必要であると考えます。行政から避難者にごような協力を求めますが。

町長

①受付で検温と問診を行い、発熱や体調不良がある方については、一般の避難者と生活空間を分けるため保健センターへ避難となります。滞在スペースには災害用ワンタッチパーテーション及びプライバシールームを設置し、通路はできる限り通行者がすれ違わないよう配慮します。高齢者や妊婦、基礎疾患のある方など、特段の配慮が必要な方については、宿泊施設を借り上げて避難所として対応します。②避難者には、避難の際にマスク、消毒液、体温計を持参し、うがい・手洗い・咳エチケットの徹底など、感染予防対策への協力を求めます。